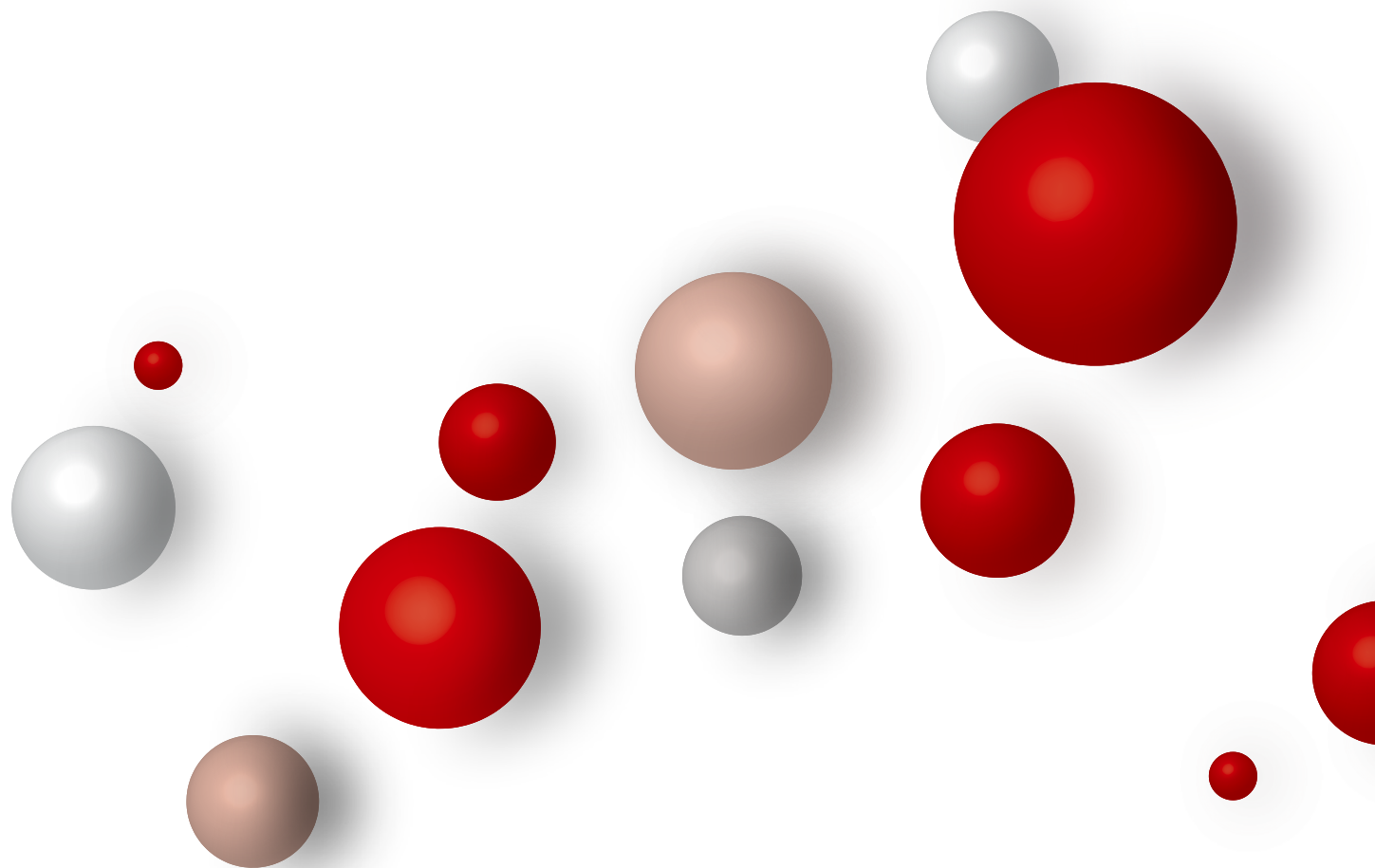


TOPPAN FORMS

第60期 TOPPAN FORMS INTERIM REPORT

事業のご報告

第2四半期 平成25年4月1日～平成25年9月30日



証券コード 7862

株主の皆様には、平素より格別なご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

第60期(平成25年4月1日～平成25年9月30日)の決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。



経営環境

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策効果が発現する中で、緩やかに景気回復しつつあるものの、アジア新興国の景気の減速や、円安による物価上昇などの懸念もあり、不透明な状況で推移しました。

ビジネスフォーム業界におきましては、一部の市場で需要の回復は見られましたが、引き続き企業の経費削減の徹底や競争激化による価格低下、IT化・ネットワーク化の進展により、厳しい経営環境となりました。

このような状況のなか、当社グループは価値創造型企業への変革を基本方針として掲げ、成長戦略の推進と経営基盤の強化に取り組みました。

事業展開と業績

成長戦略の推進につきましては、子会社化した株式会社ジェイ エスクープとの連携により、データ・プリント・サービス(DPS)の前後にある事務処理作業を含めたビジネスプロセスアウトソーシング(BPO)の市場開拓を強化いたしました。また、情報通信技術を基盤とした新事業・新サービスの開発を推進するとともに、ウェブ販売チャネルの強化と新商品の開発・拡販による商品事業の再構築に取り組みました。海外市場におきましては、資本業務提携した浙江

マツオカ 茉織華印刷有限公司との連携により中国市場開拓の強化を図るとともに、香港市場の深耕、シンガポール・タイを中心としたASEAN市場の開拓に努めました。

経営基盤の強化につきましては、製造拠点の集約などにより製造コスト削減を推進するとともに、物流コストの管理徹底、海外調達(用紙)の実施など、収益力の強化に取り組みました。

以上の結果、前年同四半期と比べ売上高は4.1%増の1,254億円、営業利益は8.8%減の57億円、経常利益は5.0%減の62億円、四半期純利益は3.6%減の36億円となりました。

経営方針

当社グループは、収益性ならびに投資効率の向上に向け、市場環境の変化に対応した販売戦略の構築、製造体制の再編、コスト構造の改革などを推し進め、企業価値の最大化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月

代表取締役社長

櫻井 隼

印刷事業

売上高994億円(対前年同四半期2.1%増)

ビジネスフォームでは、利用者にとっての分かりやすさ、伝わりやすさを追求するユニバーサルデザインや、帳票を中心とする印刷物の調達業務を一括受託する企画・提案を推進するなど、シェア拡大に努めました。しかしながら、経費削減の徹底や競争の激化による価格低下や電子化に伴う需要量の減少などにより、前年から減収となりました。

DPSは、通知物の電子化に伴う需要の減少や仕様の簡素化、競争激化による単価ダウンはあったものの、販売促進用ダイレクトメール(DM)の拡販や、プリント業務一括アウトソーシング需要の取り込み、さらには株式会社ジェイ エスキューブの子会社化を含めたBPO受託の増加などにより、前年から増収となりました。

以上の結果、印刷事業は前年と比べて増収減益となりました。

商品事業

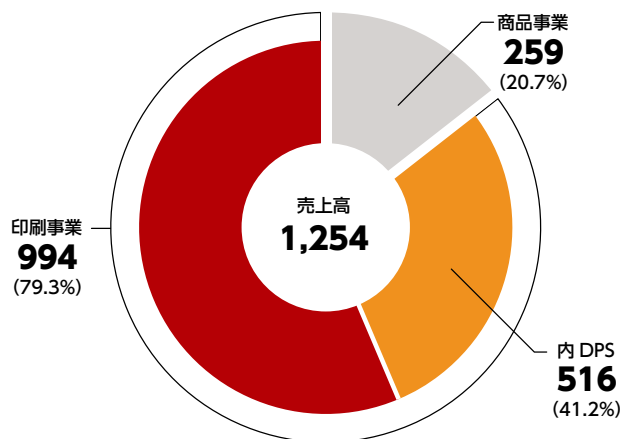
売上高259億円(対前年同四半期12.9%増)

サプライ品は、当社が保有するウェブ購買システムを活用した一括受注提案を推進するとともに、販売促進用ノベルティーの拡販を図りましたが、オフィス用品の販売価格の下落や、トナー販売の減少などにより、前年から減収となりました。

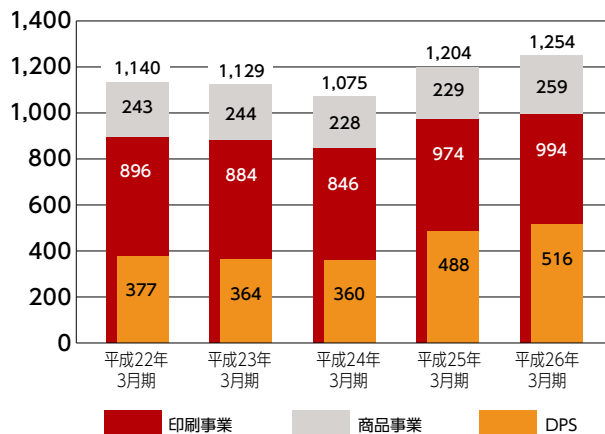
事務機器関連では、企業におけるメーリング業務のアウトソーシング化による需要減はあるものの、通販市場の拡大に伴い運輸業界で増加する事務機器需要の取り込みや、小売業や医療機関などへのカード発行システムの拡販、株式会社ジェイ エスキューブのスキナー・入力機器類の販売などが加わったことにより、前年から増収となりました。

以上の結果、商品事業は前年と比べて増収減益となりました。

売上高部門別構成比 (単位：億円)



部門別売上高の推移 (単位：億円)



信頼という土台が、さらなる成長を可能に



トッパン・フォームズ株式会社
執行役員BPO統括本部長
栗原 潔

株式会社ジェイ エスキューブ
代表取締役社長
岩崎 孝史

トッパンフォームズが展開するビジネスプロセスアウトソーシング(BPO)では、個人情報の印刷や通知(発送)に加え、返送物の受付や不備対応など、データ・プリント・サービス(DPS)の周辺業務を受託しています。多様化するBPO事業へのニーズに応えるために、入力分野に強みを持つジェイエスキューブの全株式を取得しました。そのシナジー効果と両社の強みなどについて、両社が語り合いました。

それぞれのBPO事業の特長

栗原: トッパンフォームズの事業は、伝票や帳票類の製作から始まって、顧客データをプリントして通知するというデータ・プリント・サービス(DPS)へと発展してきました。今日ではDPSの周辺業務を取り込んだビジネスプロセスアウトソーシング(BPO)提案を積極的に展開しています。このような事業の流れから、トッパンフォームズのBPO事業は印刷や通知(発送)といった出力分野に強みを持っています。

岩崎: ジェイエスキューブは、入力機器の販売、人材派遣、アウトソーシングサービスの3つの事業を融合することで

お客様のコスト削減や業務効率化に努めてきました。「P to D」(Paper to Digital: 紙からデジタルへ、Physical to Digital: 物からデジタルへ)というコンセプトのもとに、紙や物の情報をデータベース化し管理することでお客様のお役に立つことを使命とし、現在ではBPOの売上が全体のほぼ半分を占めています。

栗原: トッパンフォームズはビジネスフォーム(BF)やDPSを通じて築いてきたお客様との信頼関係をベースに、付加価値をプラスする形でBPOを展開してきました。BPOニーズの高まりに対応し、この分野でも圧倒的なシェアを目指します。

両社が生み出すシナジー効果

栗原:最大のシナジー効果は、出力分野で国内有数の生産体制を整えているトッパンフォームズと、入力分野で強みを持つジェイエスキューブが手を組むことで川上から川下までの一貫したサービスが提供できる点です。お客様には、最も低コストで効率の高いBPOサービスが受けられるメリットが生まれます。

岩崎:さらにジェイエスキューブのノウハウをトッパンフォームズと共有することで、入力業務を前提とした帳票類のデザインが可能になります。お客様に記入していただく帳票類は、設計やデザインによって読み取り精度や記入ミスの発生率に大きな違いが出ます。スキャナーで認識できないデータは一件ずつキー入力することになり、非効率になります。ワークフローの入口となる帳票類のデザインは非常に重要だと考えています。

栗原:また、両社は顧客層が異なるので、既存のお客様に新しいサービスを提案でき、事業拡大の期待が持てます。トッパンフォームズは全国の自治体からの受託実績も豊富であり、2016年1月施行の「マイナンバー」に関連するDPSや返送データ入力などのBPOといった需要の取り込みに向けてさまざまなサービスを提案していく予定です。

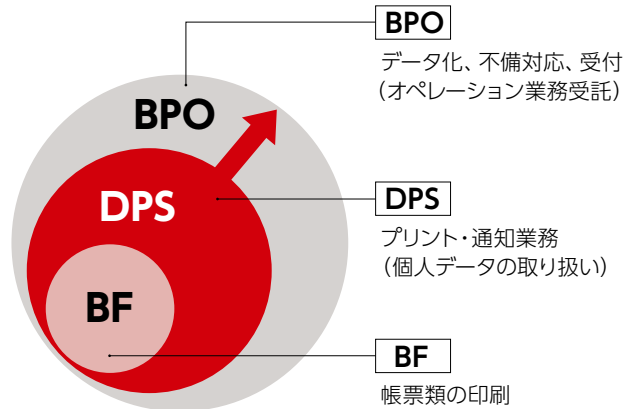
岩崎:ジェイエスキューブの人材派遣サービスのノウハウを活かして、コールセンターやBPOセンターでの人員確保についてもトッパンフォームズの力になれると思います。

今後の事業拡大に向けて

岩崎:トッパンフォームズグループでは、2019年3月期にBPO事業の売上高350億円という目標を掲げています。これは、両社が協力していく中で見えた目標数値です。決して無理な数値ではなく、現在の需要動向を見ていると、むしろ前倒しで達成できるのではないかと考えています。

栗原:2013年10月に竣工した都市型BPOセンター（東京・日野市）の活用についても連携を高め、両社のシナジーを最大化していきたいと考えています。

拡大するBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）市場



BPOについて

近年、企業競争力やBCP（事業継続力）の強化を目的に、業務の一部を外部委託することで生産性を向上する方法として、ビジネスプロセスアウトソーシング（BPO）の活用が進んでいます。当社のBPOサービスは、印刷加工やDPSの延長線としてお客様に一貫したサービスをご提供するものであり、金融機関をはじめとしたさまざまなお客様から高い評価を得ています。

● 滝山工場の増築が完了 データ・プリント・サービスの競争力を強化

データ・プリント・サービス(DPS)の基幹工場である滝山工場(東京都八王子市戸吹町)の増築工事が2013年7月31日に完了しました。これにより、印刷から出荷までを同一拠点内で完結させることができる一貫製造体制が実現し、コストや品質、セキュリティーなどさまざまな点で他社との差別化を実現するための体制が整いました。

また、関西圏でも災害発生時などにおける首都圏との連携による事業継続力の強化も視野に、大阪桜井工場の建て替え(2014年6月完了予定)と製造拠点の集約を進めています。

なお、これらの工事を含む一連の拠点集約をはじめとした製造コスト削減より、2016年3月期までの3カ年で累計100億円のコスト削減を実現できる見込みです。



● 自動認識システム大賞優秀賞を受賞 大型倉庫での棚卸しの効率化を実現

安田倉庫株式会社と共同開発した「オーダーピッカー搭載型高速棚卸し装置」が第15回自動認識システム大賞の優秀賞を受賞しました。今回の受賞は、作業現場の実状に合わせたRFID技術の活用により作業効率の大幅な改善、人件費の削減において高い効果が得られることが評価されたものと認識しています。

従来、倉庫内における文書箱などの棚卸し作業は効率が悪く、高所作業用のオーダーピッカーに作業員を搭乗させての作業には危険が伴いました。本システムでは文書箱にICラベルを貼付し、RFID技術を用いた同装置で自動的に棚卸しを行うことにより、作業の高速化と作業員の負荷軽減を実現しました。さらに品質事故や作業中の労働災害を未然に防ぐことで、お客様満足度や従業員満足度の向上にもつながります。

トッパンフォームズでは今後、倉庫や物流センターなどで棚卸し作業を行う企業に対して、お客様の作業現場に合わせた最適な形に装置をカスタマイズして、システムを拡販していきます。

● 第三者割当増資を実施 NFC決済事業を拡大

トッパンフォームズグループのTFペイメントサービス株式会社(以下、TFPS)は、トッパン・フォームズ株式会社、株式会社ジェーシービーの子会社で決済端末やそれに付随するサービスを提供する株式会社日本カードネットワーク、全国に家電量販店を展開する株式会社ヨドバシカメラの3社を割当先とした第三者割当増資を2013年5月31日に実施いたしました。今回の増資によりサービス基盤、営業力の強化を図り、割当先3社それぞれの技術やノウハウなどの強みを活かした新規ビジネスモデルの構築を目指します。

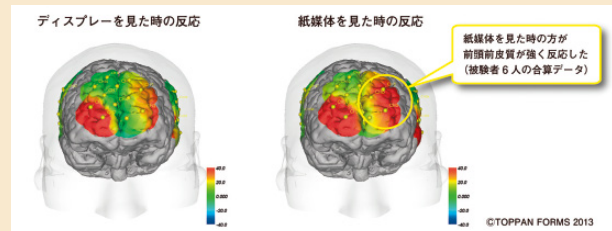
TFPSが提供するクラウド型決済プラットフォームサービス「Thincacloud/シンカクラウド」は店頭で電子マネーをかざして利用する対面決済、Webショッピングなどインターネット上で利用する非対面決済の両方に対応している点や決済端末にスマートフォンなどの汎用機器が利用できる点などが特長です。すでに展開済みの「nanaco」と展開準備中の「楽天Edy」に加え、他の電子マネーブランドとの提携を進め、より使いやすいサービスの提供していきます。

● 「紙媒体の方がディスプレイより理解できる」ダイレクトメールに関する脳科学実験で確認

ダイレクトメール(DM)に関する研究の一環として、国際医療福祉大学教授 中川雅文医学博士の監修の下、株式会社ニューロ・テクニカと共同で、DMなどの広告媒体に関する脳科学実験を行いました。

その結果、紙に印刷されたDMの優位性など、これまで実証されなかったことが脳の生体反応レベルで判明しました。具体的には、同じ情報であっても紙媒体(反射光)とディスプレイ(透過光)では脳は全く違う反応を示し、特に紙媒体の方が脳内の情報を理解しようとする箇所(前頭前皮質)が強く反応し、ディスプレイよりも紙媒体の方が相手に情報を理解させるのに優れていることなどが確認されました。

トッパンフォームズでは今後、実験で判明したデータを活用し、伝えたい情報が伝えたい相手により効率良く伝わるダイレクトマーケティング戦略をお客様に提案していきます。



四半期連結貸借対照表 (単位: 百万円)

	当第2四半期 平成25年9月30日現在	前連結会計年度 平成25年3月31日現在		当第2四半期 平成25年9月30日現在	前連結会計年度 平成25年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	100,343	102,431	流動負債	45,141	47,031
現金及び預金	30,772	39,819	支払手形及び買掛金	26,159	25,743
受取手形及び売掛金	47,924	42,347	短期借入金	233	283
有価証券	3,843	3,638	未払法人税等	1,184	2,005
商品及び製品	8,607	8,058	賞与引当金	4,179	4,365
仕掛品	1,193	974	役員賞与引当金	26	57
原材料及び貯蔵品	2,305	2,135	資産除去債務	269	208
繰延税金資産	2,400	2,322	設備関係支払手形	4,081	4,786
その他	3,599	3,375	その他	9,007	9,581
貸倒引当金	△303	△239	固定負債	3,709	3,217
固定資産	101,963	98,080	繰延税金負債	222	114
有形固定資産	72,626	71,217	退職給付引当金	2,729	2,505
建物及び構築物	34,171	31,462	役員退職慰労引当金	222	156
機械装置及び運搬具	10,343	10,577	資産除去債務	373	411
工具、器具及び備品	2,814	2,616	その他	162	29
土地	22,663	22,630	負債合計	48,850	50,248
リース資産	18	24	純資産の部		
建設仮勘定	2,615	3,906	株主資本	150,258	148,035
無形固定資産	5,001	3,958	資本金	11,750	11,750
のれん	455	—	資本剰余金	9,270	9,270
その他	4,546	3,958	利益剰余金	134,154	131,932
投資その他の資産	24,335	22,904	自己株式	△4,916	△4,916
投資有価証券	18,176	17,125	その他の包括利益累計額	2,549	1,596
繰延税金資産	1,189	1,242	その他有価証券評価差額金	2,297	1,970
その他	5,348	4,960	為替換算調整勘定	251	△374
貸倒引当金	△378	△423	新株予約権	—	13
			少数株主持分	648	619
			純資産合計	153,456	150,264
資産合計	202,307	200,512	負債純資産合計	202,307	200,512

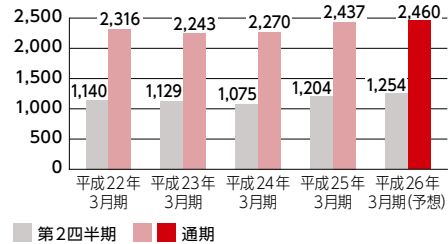
四半期連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

	当第2四半期 平成25年4月1日～ 平成25年9月30日	前第2四半期 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日
売上高	125,429	120,441
売上原価	99,894	95,185
売上総利益	25,534	25,256
販売費及び一般管理費	19,775	18,941
営業利益	5,759	6,314
営業外収益	565	466
営業外費用	109	238
経常利益	6,215	6,543
特別利益	128	20
特別損失	665	430
税金等調整前四半期純利益	5,677	6,134
法人税、住民税及び事業税	1,960	2,340
法人税等調整額	116	26
少数株主損益調整前四半期純利益	3,600	3,767
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△9	22
四半期純利益	3,610	3,744

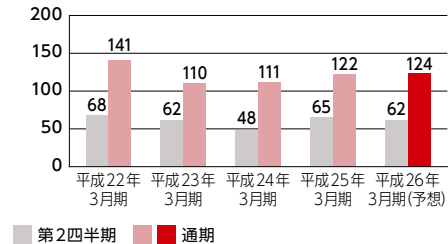
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

	当第2四半期 平成25年4月1日～ 平成25年9月30日	前第2四半期 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,971	5,136
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,804	△2,233
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,336	△1,466
IV. 現金及び現金同等物に係る 換算差額	120	2
V. 現金及び現金同等物の 増加額(△減少額)	△9,049	1,439
VI. 現金及び現金同等物の 期首残高	42,204	36,610
VII. 現金及び現金同等物の 四半期末残高	33,155	38,049

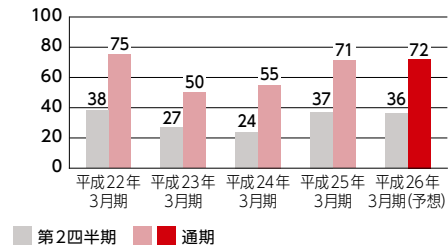
売上高 (単位:億円)



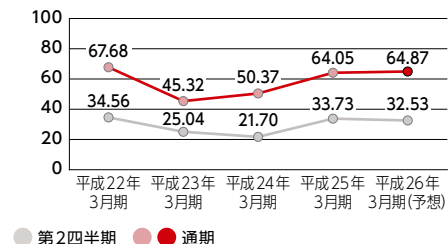
経常利益 (単位:億円)



四半期純利益 (単位:億円)



1株当たり四半期純利益 (単位:円)



会社概要

平成25年9月30日現在

商号	トッパン・フォームズ株式会社
英文名	TOPPAN FORMS CO., LTD.
本店所在地	東京都港区東新橋一丁目7番3号
電話	(03) 6253-6000(ダイヤルイン案内)
設立	昭和30年5月2日
資本金	117億5,000万円
発行済株式総数	115,000,000株
従業員数	1,864名

当社の主要な事業所

平成25年9月30日現在

本社	東京都港区東新橋一丁目7番3号	
事業所	営業統括本部	(東京都港区)
	製造統括本部	(東京都港区)
	東京事業部	(東京都港区)
	東日本事業部	(宮城県仙台市)
	中部事業部	(愛知県名古屋市)
	関西事業部	(大阪府大阪市)
	西日本事業部	(福岡県福岡市)
	東京データセンター	(東京都中央区)
	研究所	中央研究所

役員

平成25年9月30日現在

代表取締役社長	櫻井 醜	取締役	浜田 光之
取締役副社長	加藤 栄司	取締役	坂田 甲一
専務取締役	増田 俊朗	取締役	伊藤 博史
常務取締役	広村 俊悟	取締役	内田 聡
常務取締役	森 茂孝	取締役	福島 啓太郎
常務取締役	亀山 明	常任監査役(常勤)	大塚 潔
常務取締役	福嶋 賢一	監査役(常勤)	堀 喬一
取締役	足立 直樹	監査役	木下 徳明
取締役	池内 秀行	監査役	佐久間 国雄
取締役	金子 俊明	監査役	前田 幸夫

株主 (上位10名)

平成25年9月30日現在

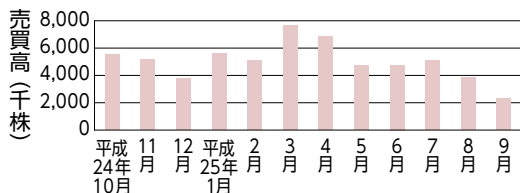
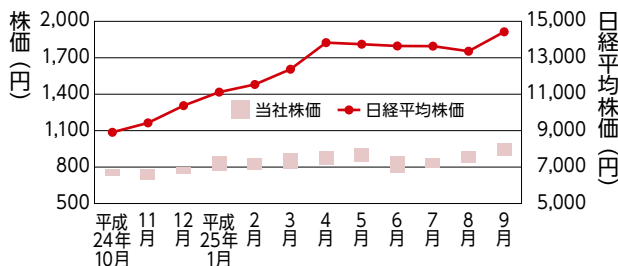
株主名	当社への出資状況	
	株式数 (千株)	持株比率 (%)
凸版印刷株式会社	67,419	60.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	8,375	7.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,635	3.3
トッパンフォームズグループ従業員持株会	2,429	2.2
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,945	1.8
エバーグリーン	1,198	1.1
カセイス バンク ルクセンブルグ クライアント アカウント	739	0.7
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	700	0.6
ゴールドマンサックスインターナショナル	636	0.6
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ ユーエス タックス エグゼンプテド ペンション ファンズ	610	0.6

(注) 1. 当社は自己株式4,003千株を保有しておりますが、上記の表から除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株価の推移・株式分布状況

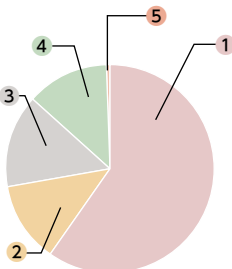
平成25年9月30日現在

株価の推移 (東京証券取引所)



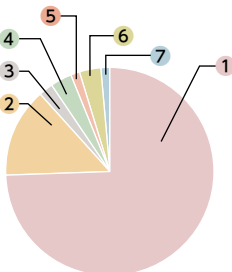
株式分布状況 (所有者別) (%)

① その他法人	68,730,200株 (59.8%)
② 外国法人等	14,497,454株 (12.6%)
③ 金融機関	16,624,700株 (14.5%)
④ 個人・その他	14,682,868株 (12.8%)
⑤ 金融商品取引業者	464,778株 (0.4%)



株式分布状況 (所有株数別) (%)

① 100万株以上	85,958,141株 (74.7%)
② 10万株以上	15,998,277株 (13.9%)
③ 5万株以上	2,312,475株 (2.0%)
④ 1万株以上	3,751,383株 (3.3%)
⑤ 5千株以上	1,565,986株 (1.4%)
⑥ 1千株以上	3,936,599株 (3.4%)
⑦ 1千株未満	1,477,139株 (1.3%)

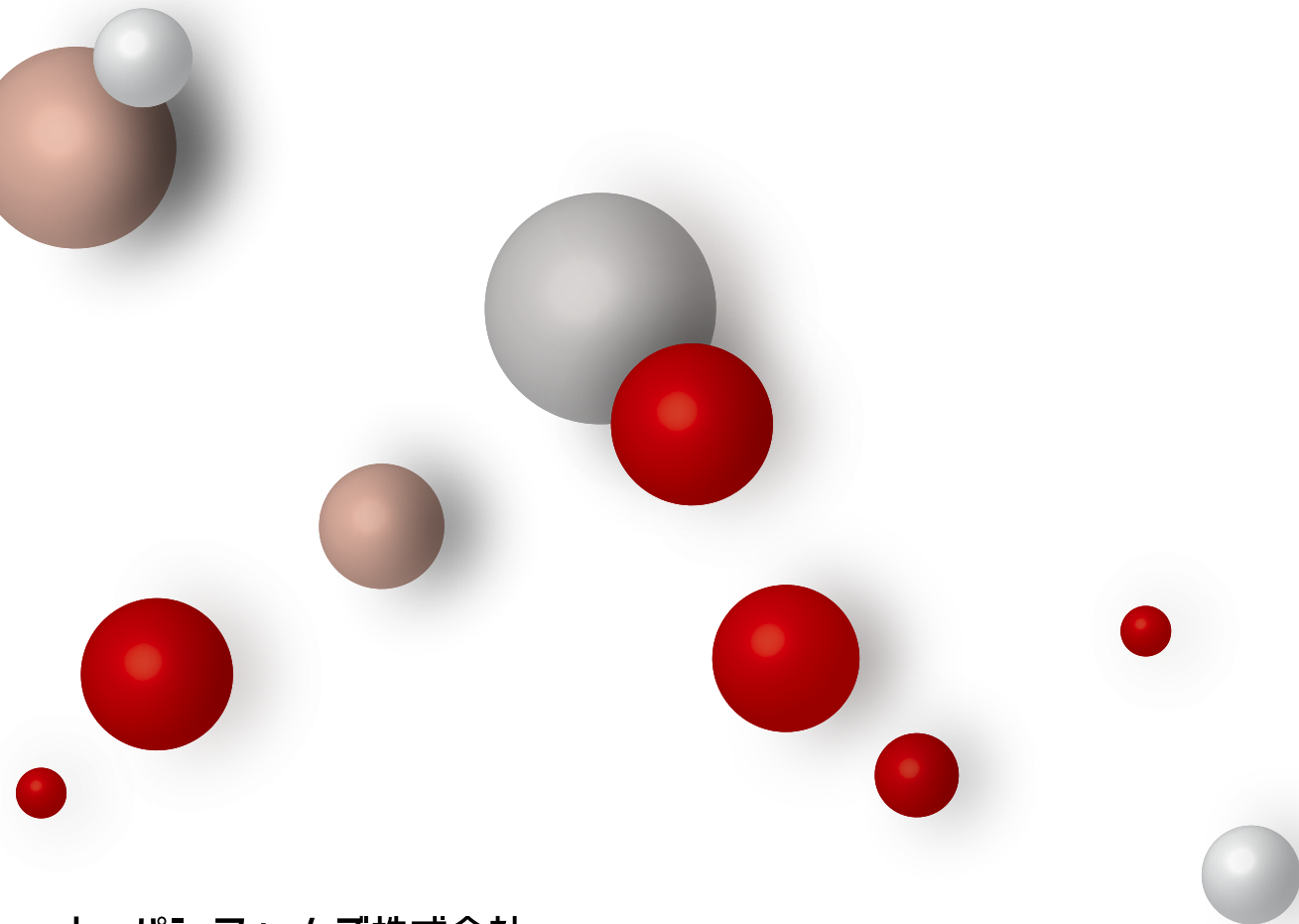


株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公告方法	電子公告により、当社ホームページ (http://www.toppan-f.co.jp/) に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 0120-232-711(通話料無料)
1単元の株式の数	100株
上場取引所	東京証券取引所
証券コード	7862

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則として口座を開設されている証券会社等が受付窓口となります。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。郵便物等の発送・返戻、未受領の配当金等につきましては三菱UFJ信託銀行株式会社で承ります。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社で受付いたします。
- 特別口座に記録された株式を市場で売却する場合は、特別口座から直接売却することができませんので、証券会社等の口座に振替える必要がございます。



トッパン・フォームズ株式会社

本店 〒105-8311 東京都港区東新橋一丁目7番3号

<http://www.toppan-f.co.jp/>